

2月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川: 左右岸 当古橋～新城橋
実施日	令和 4年2月28日	実施区間	管轄出張所: 一宮出張所 海倉橋周辺



豊川河口から、ちょうど25Kmにある海倉橋のたもと、左岸にある牟呂松原頭首工周辺を観察してきました。今から4年余り前に「世界かんがい施設遺産」に登録されました。「度重なる災害を克服した先進的な発想と技術」が認められたとの事です。上記右の写真が、その技術の一つとされる「人造石工法」がうかがわれる現取水口出口周辺法面の石積みです。明治用水、犬山の入鹿池も登録されていると、愛知県のホームページで紹介されていました。松原用水は440年前頃から、牟呂用水は130年前に作られ、東三河の農業の発展に役立って来ました。暴れ川の豊川を役立てた先人の知恵と努力に感謝。



上記左は、昔は松原用水、牟呂用水それぞれにあった取水口が統合されて、海倉橋たもとに設置されている様子です。右手奥に取水口があります。手前には魚道が設けられており、環境への配慮がされています。看板は「魚釣り禁止」の表示です。

右の写真は、取水口からのトンネルを出て豊橋方面へ続く牟呂松原幹線水路です。この先5Km位の照山分水工で二つの用水へ分けられます。牟呂用水は豊川中流の灌漑を行い、河口の神野新田まで続きます。今はコンクリートで両岸が固められていますが、建設当時はコンクリートではなく、画期的な「人造石工法」が使われました。まさ土と石灰と水を混ぜ合わせた「たたき」に自然石を浮かせるやり方だそうです。賀茂神社あたりにも、その工法の跡がみられそうです。菖蒲の花の時期に行ってみようと思います。川と農業と用水、そして人の関係、面白いです。 河川愛護モニター